

# 認定調査票(基本調査)

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
(1-1) 麻痺等	有無 (能力と同じ)	1. ない 2. 左上肢 3. 右上肢 4. 左下肢 5. 右下肢 6. その他(四肢の欠損) 上肢:肘関節を伸ばしたまま、腕を自分で持ち上げ、静止した状態で <b>保持</b> 。座位の場合、 <b>前方</b> 及び <b>横</b> (仰臥位では、前方頭上) 下肢:膝を伸ばす動作により、下肢を水平位置まで持ち上げ、静止した状態で <b>保持</b> 。大腿部が椅子や枕(仰臥位の場合)から離れないこと。 <b>その他</b> :上肢、下肢以外に麻痺等がある場合、具体的な部位と状況について確認する。
(1-2) 拘縮	有無 (能力と同じ)	1. ない 2. 肩関節 3. 股関節 4. 膝関節 5. その他(四肢の欠損) <b>肩</b> :前方あるいは横のいずれかに可動域制限があれば選択する。 <b>股</b> :屈曲(90度)または外転(膝の内側を25cm離す)のいずれかに可動域制限があれば選択する。 <b>膝</b> :伸展もしくは屈曲方向のいずれかに可動域制限があれば選択する。 <b>その他</b> :肩関節、股関節、膝関節以外に拘縮や可動域制限がある場合、具体的な部位と状況について確認する。90度程度曲がれば「制限なし」となるため、必要以上に動かさないようにする。
(1-3) 寝返り	能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない ふとん等をかけない状態で、横たわったまま、左右のどちらかに身体の向きを変え、そのまま安定した状態になること。片側だけで可。横向きに寝た状態から、うつ伏せでも可。
(1-4) 起き上がり	能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない ふとん等をかけないで寝た状態から、上半身を起こすこと。起き上がりの経路は限定しない。(※ギッチアップ機能を使わない状態で選択)
(1-5) 座位保持	能力	1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえばできる 4. できない 背もたれの無い状態で <b>10分</b> 程度、座り方は問わない。角度は決まっていない。
(1-6) 両足での立位保持	能力	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない <b>10秒</b> 程度。片足欠損時は片足立位で評価。
(1-7) 歩行	能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない 継続して <b>5m</b> 程度。
(1-8) 立ち上がり	能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない いす等に座っている状態からの(膝がほぼ直角に屈曲してる状態からの)立ち上がり。床からの立ち上がりではない。
(1-9) 片足での立位	能力	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない 左右いずれか、 <b>1秒</b> 程度。
(1-10) 洗身	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 4. 行っていない 全身を洗うこと。定義には入浴行為、洗髪は含まない。清拭のみ⇒4を選択。実際に行われている介助が不適切の場合は、適切な介助の方法を選択する。
(1-11) 爪切り	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 爪切りの準備から、切った爪を捨てるまでの一連の行為のことをいう。調査日より概ね過去 <b>1か月</b> の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。左右どちらか片方の手の爪のみ切れる、手の爪はできるが足の爪はできない等の場合。→「一部介助」を選択。
(1-12) 視力	能力	1. 普通(日常生活に支障がない) 2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える 4. ほとんど見えない 5. 見えているのか判断不能 見えるかどうか。日常生活に支障がある人は、実際に視力確認票の図を見せて評価する。視力確認表は本人の正面に置く。視野狭窄・視野欠損を含む。メガネ、コンタクトレンズ等を使用している場合は、使用している状況で選択する。
(1-13) 聴力	能力	1. 普通 2. 普通の声がやっと聞きとれる 3. かなり大きな声なら何とか聞きとれる 4. ほとんど聞こえない 5. 聞こえているのか判断不能 聞こえるかどうか。日常的に補聴器等を使用している時は使用している状況で選択。

★印:個人差が大きい調査項目です。具体的な介護の手間と頻度を教えてください。

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
★ (2-1) 移乗	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 臀部を移動させ、いす等へ乗り移ること。清拭・じよくそう予防目的の体位交換も含む。
★ (2-2) 移動	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「日常生活」において食事や排泄、入浴等で必要な場所への移動。外出行為は含まない。
(2-3) えん下	能力	1. できる 2. 見守り等 3. できない 食物を経口より摂取する際の「えん下」(飲み込むこと)の能力。評価軸は能力。「できる」、「できない」のいずれにも含まれない場合は、「見守り等」を選択。
★ (2-4) 食事摂取	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 配膳後の食器から口に入れるまでの行為。経管栄養の際の注入や中心静脈栄養含む。具体的な介護の手間の聞き取り。朝昼夕で介護の方法が異なる場合あり。「手間」の総量を把握できるよう、長にかかる場合は時間(〇〇分)を聞くことよい。定義に含まれない介護の手間(準備、食べこぼしの処理等)の聞き取り。
★ (2-5) 排尿	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「排尿動作」「陰部の清拭」「トイレの水洗」「トイレやポータブルトイレ等の排尿後の掃除」「オムツ、リハビリパンツ、尿とりパッドの交換」「抜去したカテーテルの後始末」の一連の行為。①排泄方法、②頻度、③失敗の有無、④昼夜の違い。( 回/日中、 回/夜間)
★ (2-6) 排便	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「排便動作」「肛門の清拭」「トイレの水洗」「トイレやポータブルトイレ、排便器の排便後の掃除」「オムツ、リハビリパンツの交換」「ストーマ袋の準備、交換、後始末」の一連の行為。①排泄方法、②頻度、③失敗の有無、④昼夜の違い。
(2-7) 口腔清潔	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 「歯ブラシやうがいの水の用意」「歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備」「義歯をはさず」「うがいをする」等の一連の行為。
(2-8) 洗顔	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 「タオルの準備」「蛇口をひねる」「顔を洗う」「タオルで拭く」「衣服の濡れの確認」等の一連の行為。「洗顔」を行う習慣がない場合は、入浴後に顔をタオルで拭く介助や、ベッド上で顔を拭く行為などの類似行為で代替して聞き取る。
(2-9) 整髪	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 「ブラシの準備」「整髪料の準備」「髪をとかす」「ブラッシングする」等の一連の行為。頭髪がない、短髪などの場合は、頭を拭く行為などで代替して聞き取る。
(2-10) 上衣の着脱	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助
(2-11) ズボン等の着脱	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 ズボン等をはかない場合はパンツ、おむつの着脱の行為で代替して聞き取る。
(2-12) 外出頻度	有無	1. 週1回以上( 回/週) 2. 月1回以上( 回/月) 3. 月1回未満( 回/年) 調査日より概ね過去1か月に、1回30分以上の敷地外へ出る頻度の確認。外出の目的や、同行者の有無、目的地等は問わない。※「2-2移動」「障害高齢者の日常生活自立度」の判断の参考として外出時の介助の状況を聞き取っておく。

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
(3-1) 意思の伝達	能力	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる 2. ときどき伝達できる 3. ほとんど伝達できない 4. できない 伝達する意思(身振り手振りでも可)の内容の合理性は問わない。(5-3) 日常の意志決定との
(3-2) 毎日の日課 を理解	能力	1. できる 2. できない 起床、就寝、食事等の大まかな内容について、理解していること。
(3-3) 生年月日や 年齢を言う	能力	1. できる 2. できない 生年月日(数日のずれ可)か年齢(2歳までの誤差可)のいずれか一方で可。
(3-4) 短期記憶	能力	1. できる 2. できない 調査直前にしていたことを把握しているか。確認が難しい場合、3品テストを実施する。3品見せ、復唱させ、覚えておくよう指示。5分以上後に2つを提示し、提示されていない物を尋ねる。
(3-5) 自分の 名前を言う	能力	1. できる 2. できない 姓(旧姓も可)もしくは名前のどちらか。
(3-6) 今の季節を 理解する	能力	1. できる 2. できない 旧暦可、多少のずれ可。
(3-7) 場所の理解	能力	1. できる 2. できない 「ここはどこですか」という質問にこたえる。「施設」「自宅」などの区別がつけばよい。
(3-8) 徘徊	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 目的もなく動き回る行動。重度の寝たきり状態であっても、ベッド上を這い回る等も含む。
(3-9) 外出すると 戻れない	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 行動の頻度。居室や居住棟から出て、自室に戻れなくなる行動も含む。
項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
(4-1) 被害的	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 「物を盗られた。」「食べ物に毒が入っている。」「自分の食事だけがない」等の被害的な行動。
(4-2) 作話	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 事実とは異なる話をする行動。自分の都合のいいように事実と異なる話をすることも含む。
(4-3) 感情が不安定	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 泣いたり笑ったりして感情が不安定になる行動。場面や目的からみて不適當な行動。
(4-4) 昼夜逆転	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 夜間眠れず、そのために日中に活動できない、もしくは、昼夜逆転し、通常、日中行われる行為を夜間行うこと。夜更かしなど単なる生活習慣、生活環境のために眠れない場合は含まない。
(4-5) 同じ話をする	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) しつこく同じ話をする行動。
(4-6) 大声をだす	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 周囲に迷惑となるような大声を出す行動。元々の地声の大きさでは評価しない。

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
(4-7) 介護に抵抗	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 単に、助言しても従わない場合は含まない。
(4-8) 落ち着きな	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 「家に帰りたい」という意思表示と落ち着きのない行動の両方がある場合のみ該当。
(4-9) 一人で出たがる	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 一人で外に出たがり目が離せない行動。環境上の工夫等で外に出ることがなかったり、歩けない場合は含まない。
(4-10) 収集癖	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) いろいろなものを集めたり、無断で持ってくる行動。
(4-11) 物や衣類を壊す	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 実際に物が壊れなくても、破壊しようとする行動も評価する。
(4-12) ひどい物忘れ	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 認知症の有無や知的レベルは問わない。単なるもの忘れは含まない。もの忘れによって、何らかの行動が起こっているか、周囲の者が何らかの対応を取らなければならないような状況(火の不始末など)をいう。
(4-13) 独り言・独り笑い	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 意味もなく独り言や独り笑いをする行動。場面や状況とは無関係に持続したり突然現れたりすること。
(4-14) 自分勝手に行動する	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 明らかに周囲の状況に合致しない、自分勝手な行動をすること。性格ではない。
(4-15) 話がまとまらない	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 話の内容に一貫性がない、話題を次々変える、質問に対し全く無関係な話が続く等会話が成立しない行動のこと。話下手のことではない。
項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
(5-1) 薬の内服	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 薬を手元に用意する、薬を口に入れる、飲み込む(水を飲む)という一連の行為。インスリン注射、塗り薬の塗布等、内服以外のものは含まない。
(5-2) 金銭管理	介助の方法	1. 介助されていない 2. 一部介助 3. 全介助 所持金の支出入の把握、管理、金額の計算等の一連の行為。金銭の出し入れは含まない。
(5-3) 日常の意思決定	能力	1. できる(特別な場合でもできる) 2. 特別な場合を除いてできる 3. 日常的に困難 4. できない 1つの項目で2つの事を探る項目。・特別な場合(ケアプラン作成への参加、治療方針への合意)・日常的な状況(見たいテレビ番組、その日の献立、着る服の選択など)

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
(5-4) 集団への不適応	有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 家族以外の他者の集まりに参加することを強く拒否したり、適応できない等、明らかに周囲の状況に合致しない行動。調査前概ね過去1か月に行動が発生している場合、「介護の手間」「頻度」を聞き取る。
(5-5) 買い物	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 食材、消耗品等の日用品を選び(陳列棚から取り)、代金を支払うこと。
(5-6) 簡単な調理	介助の方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「炊飯」「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めんの調理」のみ。経管栄養の場合、流動食の温めは「レトルト食品の加熱」に該当。

過去14日間、医師又は医師の指示に基づき、看護師等によって継続して実施されている医療行為に限定。「実施頻度/継続性」「実施者」「当該医療行為を必要とする理由」を聞き取る。

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項)
点滴の管理	有 無	急性期の治療を目的としたものは含まない。薬剤・目的が分かるとよい。
中心静脈栄養	有 無	必要に応じて中心静脈栄養が供給できる体制にある場合を含む。
透析	有 無	透析の方法や種類を問わない。
ストーマ(人工肛門)の処置	有 無	人工肛門が造設されている者に対し、消毒、バックの取り替え等の処置。
酸素療法	有 無	実施場所は問わない。外出時のみ使用も含む
レスピレータ(人工呼吸器)	有 無	経口・経鼻・気管切開の有無や、機種は問わない。
気管切開の処置	有 無	カニューレの交換、開口部の消毒、ガーゼ交換、開口部からの喀痰吸引などの処置。家族の類似行為は含まない。必要な研修を受講済みの介護士等が医師の指示に基づき行う行為は含む
疼痛の看護	有 無	がん末期のペインコントロールに相当する痛み。鎮痛薬の点滴、硬膜外持続注入、座薬、貼付型経皮吸収剤、注射のみ。
経管栄養	有 無	経口・経鼻・胃ろうであるかは問わない。
モニター測定	有 無	血圧、心拍、心電図、呼吸数、酸素飽和度、のいずれか1項目以上。24時間にわたってモニターを体につけた状態で継続的に測定。
じょくそうの処置	有 無	大きさや程度は問わない。予防処置を含む。
カテーテル	有 無	コンドームカテーテル、留置カテーテル、ウロストーマ等。
障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)		<b>自立 J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2</b> 一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回に見られる状況で選択する。日頃の状況等について、具体的な内容を聞き取る。「能力」ではなく「状態」である。『移動』に関わる状態像に着目して評価。
認知症高齢者の日常生活自立度		<b>自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M</b> 訪問調査時の様子から選択する。